

共同子育て広場おひさまの事業及び活動

報告とご案内

*すぎの子共同保育所（保育事業）

1～5歳児までの保育を行っています。

平成20年度、園児募集中。

対象年齢 平成14年4月2日生まれから平成19年4月1日生まれまで



*園開放事業

第1、第3土曜日、午前、保育所を開放して音楽リズムや親子で楽しむことできる季節の遊びなどを企画しています。

～報告～

平成20年1月19日(土) 調理実習『心とからだがよろこぶ子どもの食事』 参加者14名

2月16日(土) 子育て講演会『幼い子どもと絵本』

講師 大山恵子さん(東京在住・幼稚園教諭) 参加者38名

福音館さんご協力で、東京から幼稚園教諭、大山恵子さんをお迎えしました。

絵本を見ながら、あたたかな声でお話を聴くことは、愛情を体験することでもあります。

絵本の読み語りを通して、お話の世界に引き込まれ、大人自身がその楽しさを体験し、あらためて絵本の読み語りの大切さを感じました。

～今後の園開放予定～

5月17日(土)9時～10時『音楽リズムをしよう』 6月7日(土)9時～10時『音楽リズムをしよう』



*おひさま通信発行

会員や卒園児、保護者を結ぶ機関紙。おひさまの諸事業、すぎの子共同保育所の子どもたちや園開放に参加された子どもたちのようす、行事案内を掲載し発送しています。

ボランティアのため
募集

ボランティア募集

もっとたくさんの人におひさまを知ってもらい、活動を広げていくためにボランティアを募っています。

- ◇保育のお手伝い(要保育士資格)
- ◇給食のお手伝い(要検便)
- ◇園児募集ビラ・ポスター配り
- ◇おひさま通信の編集
- ◇園開放事業スタッフ(受付・準備・広報など)

- ◇講演会の企画・運営
- ◇事務局のお手伝い(印刷や発送などの作業)
- ◇ホームページ管理・更新のお手伝い
- ◇おまつり等で事業活動の手伝い
- ◇畠作業のお手伝い

会員募集

みんなの力でおひさまの活動を支えてください。

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさまは、みんなで知恵と力を出し合い、共同して子育てに取り組もうと考えました。子育てが楽しくなる、子どもの目が生き生きと輝く活動に取り組みます。行事に参加できる、できないに関わらずおひさまを応援したいという方などご入会をお待ちしております。

◎ 正会員 入会金なし 年会費 5000円 イベント割引 総会決議権

◎ 賛助会員 入会金なし 年会費 一口1000円 イベント割引

寄付・債券のお願い



新園舎建設に2165万円の債権を寄せていただきました。
2010年度からの債券返済のため引き続き寄付、債券をお受けしております。
今後ともよろしくお願ひいたします。

会費、寄付、債券振込口座および振込名義
郵便振替口座 01610-2-93045
口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま

*ホームページあります。おひさま <http://npo-ohisama.org/> 保育所 <http://www.kyoho.org/>

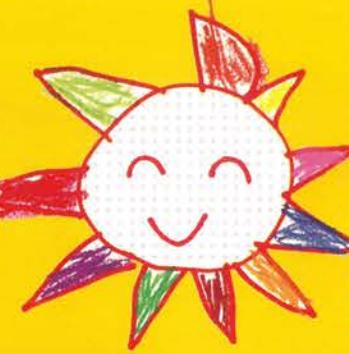
特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま

おひさま通信

〒779-3125

徳島市国府町早瀬字省ヶ原218番6

Tel/Fax 088-642-5933



VOL.4
2008年4月25日



生活発表会

二月二日に、生活発表会が行われました。保護者の協力により、本番一週間前には舞台の設営も完了し、(今年も、酒ケース200個余りを使って舞台を設置)思いっきり使うことができました。

一、二歳児は子ども達が大好きな絵本『おおきなかぶ』の劇をしました。白い布に詰め物をして大きなかぶを作り、みんなで「うんどこしょ、どっこいしょ」と引っ張ったりかぶの上にのって遊んだり、保育室に大きなかぶを置き、毎日好きなときに遊んだりしてきました。仲間同士で「いっしょにしよう!」「ひっぱるのだけがてつたって~」と、本当に楽しそうに遊んでいました。手遊びの中の一つ、『やきいもグーチーバー』はじゃんけんを織りませた手遊びです。最後にじゃんけんをすると、「ぐー!」「ちょき!」と身体を乗り出しながら、出した手を嬉しそうに保育者に見せる子どもたち。毎日、大きなかぶで遊んだり手遊びをしたりして、当日は、舞台の上でも普段のかわいらしく楽しそうな様子が出ていたように思います。

三歳児は日頃から友だち同士でよく遊んでいる『おうちごっこ』を劇あそびにしました。子ども達と考えたのは『クリスマスの日に子どもが扮するいろいろな登場人物が、果物を持ち寄り、サンタさんにあげるためのケーキを作っていく』というストーリーでした。いろいろな役になりきって遊ぶことを普段から本当に楽しんでいる子どもたちです。「今日はサンタさんになる」「今日は宅配便のおじさん」と毎回違う役になる子もいて、自分たちでつくった遊びならではの、自由に楽しんでいる子どもたちの姿が印象的でした。

劇のほかには、みんなで歌をうたったり、楽器あそびをしたりしました。鈴やカスタネットなどの楽器をもっただけでにこにこと笑顔がでて「楽器を鳴らしたくてたまらない」というわくわくする様子が伝わってきました。

四歳児は『ねずみのよめいい』の話を劇にしました。最初は生活発表会に対する不安や恥ずかしさから「やらん!」と言っていた子もいましたが、「恥ずかしいけどみんなと一緒にやりたい」と自分なりに考えたのは大道具係やナレーターでした。恥ずかしさを感じはじめる年齢ならではの心の葛藤がどの子にもあったと思いますが、それを乗り越えてそれぞれのもてる力を出していました。

休んでいる子がいたときは、「じゃあ〇〇がやってあげようか?」と仲間の代役をする子もいました。自分の役ではないのに、セリフなどの内容を覚えていたのに驚きで、みんなで作りあげた劇なんだなと思いました。

合奏では、ピアノの音をよく聞き、仲間とりズムを合わせながら、とても真面目に取り組んでいる姿がありました。歌も、大きな声で元気よくうたっていました。

五歳児、『なとりきょうだい』のお話の劇をしました。最初はセリフや出番のタイミングがなかなか覚えられない場面もありましたが、仲間が一緒に考えてくれたり、声をかけ合ったりして、一人一人の持ち味を活かしながらみんなでつくりあげた劇になっていました。声に強弱をつけながら歌をうたったり、手話をしながらうたったりもできるのは、やはり年長児だと思います。運動会や共保まつりでは太鼓、お正月には獅子舞に取り組んできました。生活発表会では、太鼓も獅子舞も、すっかり自分たちのものになっていて、堂々と演じる姿がありました。

本番では子ども達にもいろいろな不安やプレッシャーがありました。年長児は最初の出番の直前に「うわあ、どきどきする~」「ここがどきどきしるだろ」と、お互いの胸の鼓動を確かめ合っていました。そんな恥ずかしさや不安を乗り越えることが達成感を感じたり自信になりましたりして、一つ大きな成長を遂げたのではないかと思います。

保護者の方に保育所での様子や一年間の成長を伝えるだけではない、子ども達にとっての成長の場である、生活発表会。

保育者としても、子ども達の姿からたくさん感動をもらいました。



おさんぽってこんなにたのしい!!

